

Pick up!

特にお伝えしたい項目を取り上げました

9/24 RUN 伴 2016 in 石川

今年も認知症の方とご家族を支え、地域とつなぐタスキリレー「RUN 伴」が開催されました。当院からは、佐久間院長をはじめ、約30名の職員が参加。約10kmの区間を13名でつなぎました。



10/16 第10回 まちむら交流イベント 2016 能美ほっこりまつり

「里山の自然と暮らし」をテーマに開催される「能美ほっこりまつり」。当院のリハビリスタッフが中心となって「ノルディックウォーキング」体験コーナーを出展しました。当日は晴天に恵まれ、たくさんの方に来場いただきました。



11/5 のみ市民公開講座 ～明日のために“がん”を知ろう～

今回は「“がん”とともに生きる」をテーマに、金沢赤十字病院 副院長の西村元一先生をメイン講師にお迎えし、ご自身の体験を交えた貴重なお話を頂きました。当院からは野竹緩和ケア内科部長が、“がん患者”をサポートする様々な取り組みを紹介しました。



130名の参加がありました

9/30 看護師特定行為研修を修了しました

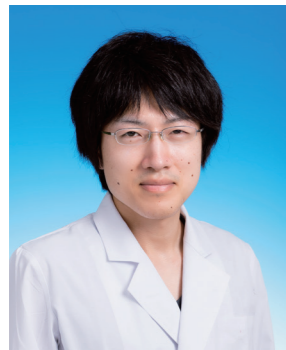
「看護師特定行為研修制度」は、医師や歯科医師の判断を待たず、手順書により、一定の診療補助(特定行為)を実施できる看護師の養成を目的としています。看護師のキャリアアップや、医師の負担軽減に加え、医師不足の地域や在宅医療の人員を補うことなどが期待されています。

当院の吉本副師長が参加し、約1年にわたる研修を修了しました。

オペレーションセンター 看護師 副師長 吉本 聡美



10/1 新任医師の紹介



内科、内分泌内科、糖尿病・代謝内科

たかくわ こういちろう
高桑 功一朗

出身：富山県 大学：富山大学
資格：日本内科学会認定内科医
学会：日本内科学会、日本内分泌学会
日本糖尿病学会、日本甲状腺学会

患者さんのお役に立てるよう最善を尽くします。

houju Group
houju

ほうじゅグループ

能美市

- 芳珠記念病院
- 居宅介護支援事業所
- ほうじゅ訪問看護・リハステーション緑が丘

- 介護老人保健施設 陽翠の里
- 訪問介護事業所 ビジットケアひすい
- 小規模多機能型居宅介護事業所 コミニケア緑が丘
- 高齢者対応型賃貸住宅 コレクティブハウス緑が丘

- 福祉用具貸与事業所 ライフケア芳珠
- ライフケア芳珠 サテライトショップ

小松市

- グループホーム 陽らら

ほうじゅグループのモットー 「わらに 和楽仁」

仲よく楽しく
人と社会を健康に

芳珠記念病院の基本方針

1. 地域医療を担う病院として、当院に関わる皆様の生涯の健康を支えます。
2. 心のふれあいを大切に、安心できるパートナーシップを築きます。
3. 利用される皆様の権利を尊重し、十分な説明と同意のもとに、参画できる医療を提供します。
4. 救命救急から慢性疾患まで最新の科学的根拠に基づく安全で確かなチーム医療を多職種協働で提供します。
5. 地域との交流を大切に、社会保障の向上と経済の振興に取り組みます。

編集後記

「元気なまち」金沢で日本慢性期医療学会が開催されました。当日は、石川県観光PRキャラクターである「ひやくまんさん」も登場。スタッフとともに金沢流のおもてなしでお出迎えしました。たくさんの方にご来場いただき、慢性期医療に対する関心の高さを実感しました。

熱い熱い学会を終え迎えた11月。冬の足音を感じる肌寒い日も多くなりました。これからは感染症のシーズン。皆さんも自己管理に気を付けて師走を駆け抜けましょう♪

芳珠記念病院
ヤッ芳 2016年 No.145
発行：2016.11.10

皆さまと ほうじゅをつなぐコミュニケーションツール

ヤッ芳

《発行・編集》 No.145
医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院
ほうじゅ連携室
石川県能美市緑が丘 11-71
☎ (0764)51-5551 (代)

ほうじゅ 検索

2016年 秋号コンテンツ P2-3 特集「腰椎圧迫骨折のお話」 P4 Pick up NEWS!

平成28年10月27・28日 第24回日本慢性期医療学会

慢性期医療と創る未来 - 医療・介護とまち・ひと・しごと -

当院は学会長病院として運営に参画しました。



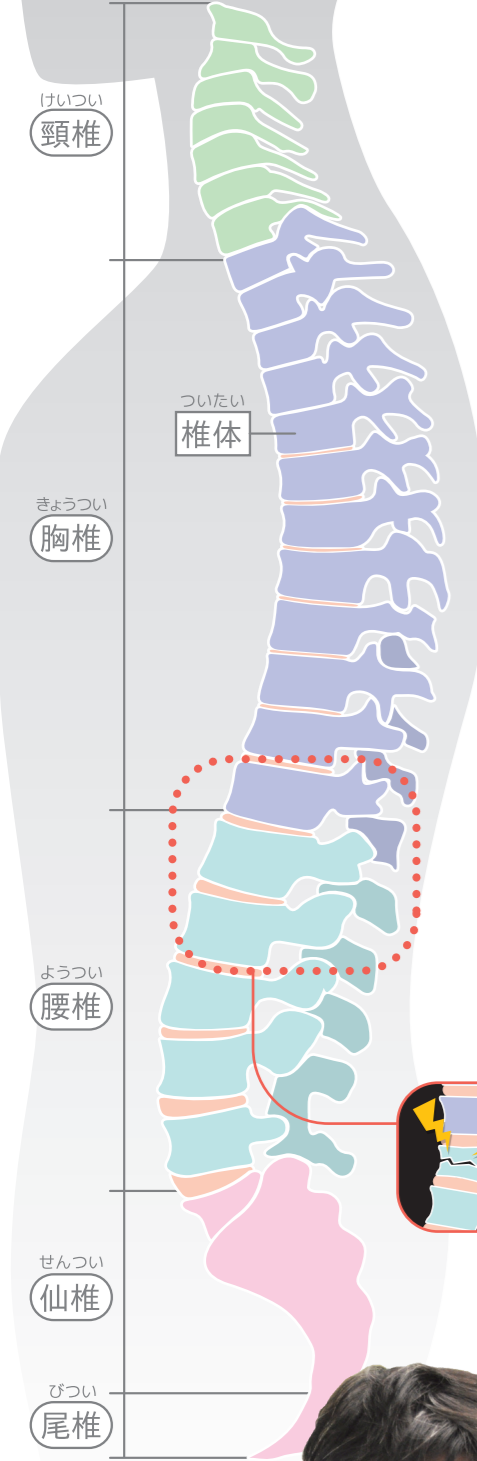
北陸新幹線が開通し、元気いっぱいの金沢で、「第24回日本慢性期医療学会」を開催しました。約2,300名の参加者が、記念講演のほか、7つのシンポジウム、約700題の一般演題を通して多くのことを学びました。

医療・介護がなければ「まち」づくりはできませんし、地域に「ひと」がいなければ医療・介護は提供できず、「しごと」として成り立ちません。また、医療・介護を頼って来る方は、患者さんであり生活者です。これら様々な要素を俯瞰して初めて医療・介護と「まち・ひと・しごと」が融合し、慢性期医療と創る未来が実現できると感じました。ご支援を頂いた行政や企業、団体の皆様に御礼申し上げます。

第24回日本慢性期医療学会 in 金沢 学会長 仲井 培雄
医療法人社団和楽仁 理事長

せきつい 脊椎圧迫骨折のお話

～高齢の方は要注意!～



●「脊椎」ってなーに？

脊椎(せきつい)は、一般的に「背骨」といわれ、いくつもの骨(椎体)が関節でつながった動く柱のような構造で、身体を支え、バランスをとる重要な役割を担っています。人間の脊椎は、頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎に区分され、全体ではS字のような形をしています。骨と骨の間にはクッションの役割をする椎間板があります。



●「骨粗しょう症」と骨折の関係

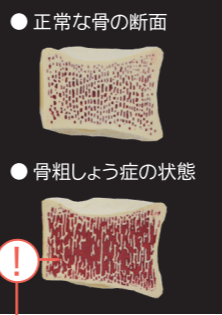
「骨粗しょう症」は、女性や高齢者に多くみられる「骨がもろくなる病気」です。骨粗しょう症になると、わずかな衝撃でも骨折することがあり、脊椎、大腿骨近位部(足の付け根)、橈骨(手首)、上腕骨が骨折しやすい部位です。脊椎や大腿骨は、生活動作への影響も大きく、これをきっかけに介護が必要な状態になる方も少なくありません。骨粗しょう症は日頃の生活習慣とも関係しています。下記のような方は検査を受け予防に努めましょう。

骨粗しょう症の検査をおすすめしたい方

運動不足・過度の運動をしていた・たばこを吸っている・食生活が偏っている・アルコールの摂取量が多い・急激なダイエットをしたことがある・50歳以上の女性など

閉経後の女性は、丈夫な骨をつくり維持する女性ホルモンの分泌が急激に低下し、骨粗しょう症になるリスクが高まります。

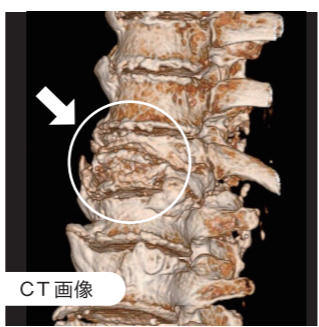
模型による骨の断面の比較



赤い部分が空洞。骨粗しょう症は密度が低いことがわかります。

いつのまにか起こる脊椎の骨折「脊椎圧迫骨折」

「脊椎圧迫骨折」は、「骨粗しょう症性椎体骨折」とも言われ、脊椎が押しつぶされるように変形してしまう骨折です。...の部分に多く見られ、尻もちなどの衝撃はもちろん、くしゃみや物を持ち上げるといった何気ない動作が原因でいつのまにか骨折してしまうこともあります。そのため、腰痛と勘違いしたりして、骨折に気付かないまま生活している方もいます。



担当医からひとこと

「おうちでいきいき暮らす」ため、手術も視野に治療を行います。

整形外科部長 加藤 久人
日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会脊椎脊髄病医

「骨粗しょう症」は、中高年の方にとって身近な疾患です。特に女性は、ほとんどの方が骨粗しょう症になり、中には50歳前後で発症される方もいます。早めに対処することで進行を遅らせることができますので、早期発見のために骨密度検査を受けることをお勧めします。健診では踵や手首の検査が一般的ですが、当院では腰や大腿骨といった実際に骨折しやすい部位の検査を行っています。

「脊椎圧迫骨折」は、適切な治療を受けることで生活の質をあげることもつながります。当院では「おうちでいきいきと暮らしていただく」ため、手術も視野に治療を行っています。お気軽にご相談ください。

●～痛みがあれば受診を～「脊椎圧迫骨折」の治療方法

日常生活をおくれる程度の痛みですむ場合もある圧迫骨折ですが、3割程度の方は背中や腰に激しい痛みがでます。痛みは安静にしていると治まることもあります。つぶれた骨が元の状態に戻るわけではありません。そのままにすると、他の骨に負担がかかり、次の骨折を引き起こしたり、寝たきり状態につながる恐れもあります。治療方法は様々ですが、状態にあった治療を受けることが大切です。違和感や痛みを感じた時は、「年齢のせいだから仕方がない…」と自己判断せずに専門医に相談しましょう。

保存療法

コルセットを装着して安静な姿勢を保ちつつ、痛み止めや、骨粗しょう症のお薬を使用し治療を待ちます。手術をしなくてよいのが利点ですが、回復具合によっては長期入院が必要になることもあります。日常生活における制限も多く、治療が長引くことで高齢者を中心に身体機能の低下とそれに伴う様々なリスクが考えられます。

保存療法が長引くことによるリスク

- 心身の機能低下
- 肺炎
- 褥瘡
- 血栓症
- 認知症の発症や進行

当院こだわりの術式 経皮的椎体形成術

背中から脊椎の両側に手術器具を入れ、つぶれた骨を整えた後、骨の代わりとなる物質を充てんし、補強する手術療法です。適用は医師の判断によりますが、手術による傷も小さく、手術時間も短く済むため、特に高齢者の方にはおすすめの術式です。骨を元の形に近づけ、血管や神経を傷つけないように充てん物質を注入するには高度な技術が必要になります。



●「リン酸カルシウム骨ペースト」を使用

骨に充てんする物質は、「医療用骨セメント」が一般的ですが、固まる過程で熱を発する性質があり、神経などを傷つけてしまう恐れがあります。そこで当院では「リン酸カルシウム骨ペースト」を使用しています。骨セメントと比較し強度は劣りますが、脊椎としては十分な強度があり、固まる過程の発熱がない、元の骨の成分と同じといった長所があります。

脊椎固定術(インストゥルメンテーション)

金属のプレートや棒をねじで固定し、脊椎を安定させる手術療法です。長期間が経過した圧迫骨折により脊髄症状(※)が出た方などに用います。手術による傷は大きくなりますが、メリットも多い治療方法です。

※脊髄や神経の損傷により、背中の痛み、手や足の感覚障害、筋力低下、歩行障害、排尿障害などが起こる状態



●加藤医師の外来担当日

月	火	水	木	金	土
×	○	○	○	○	△ 第4のみ

外来診療は午前中のみです。
受付時間 7:45～11:30
第1.3土曜、日曜、祝日は休診

●受診に関するお問合せ

下記までお問合せください。

一般の方
整形外科外来
医療機関の紹介
ほうじゅ連携室

☎ 0761-51-5551(代表)